

富山市におけるブルーバール広場活性化に向けた再整備計画

株式会社新日本コンサルタント 正会員 ○石村 尚太, 西田 宏
富山市建設政策課 上埜 一樹, 水和 奏

1. はじめに

富山市は2018年6月に「SDGs 未来都市」及び「自治体 SDGs モデル事業」に選定されている。本業務に係るブルーバール広場再整備は自治体 SDGs の推進に資する取り組み「都市のかたち：公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりの実現」において「歩いて暮らせるまちづくり」に関連する事業である。本計画地は富山駅北地区に位置する全長約 420m, 幅員約 30m の歩道状の広場である。2020 年 3 月の富山駅における路面電車の南北接続により、中心市街地がある富山駅南側からのアクセスが容易となったことで、更なる利用促進が期待されることから、魅力向上を図るため再整備を計画したものである。



Fig. 1 富山駅周辺整備概要

2. 整備方針

ブルーバール周辺において、新たな賑わいの創出及び周辺エリアの価値向上を目的とした沿線地元企業から構成される「ブルーバールエリアマネジメント富山」が2020年4月に発足された。本事業遂行にあたり、この協議会と議論を行い、上記目標に向け利活用しやすい広場空間の実現を整備方針として定めた。

3. 現状の課題

計画地の現状は、広場中央から両端に約 5m の位置に並木及び照明が整備されているため、空間が分断され、広がりを感じにくい空間構成となっていた。また、日中は日陰を創出する反面、夜間は照明の光を遮断されることや、大規模イベント時は障害物となって利活用しにくいなどの課題があった。さらに、近年ムクドリによる鳥害も深刻化していた。そのほか、計画地周辺の労働者数に対し飲食店が不足しており、「ランチ難民」が発生していることも課題となっていた。



Fig. 2 ブールバールの現状
(富山駅北口よりのぞむ)

4. 再整備コンセプト

条例によりブルーバールは2020年10月より「道路」から「広場」へと用途が切り替えられた。これにより大規模イベントでの利活用や日常的な滞留空間の更なる機能の向上を目指し、「緑の都市空間」をコンセプトとして計画を行った。

大規模イベント時及びランチ難民の解消として、キッチンカーの誘致や隣接するオープンカフェによる飲食提供に合わせ、日常的にリラックスできる非日常空間の創出を目指し整備を行う方針とした。



Fig. 3 再整備イメージパース

キーワード ブールバール, 再整備, 大規模イベント, 広場空間, コンパクトシティ

連絡先 〒930-0857 富山県富山市奥田新町1番23号 株式会社新日本コンサルタント TEL076-464-6520 FAX076-464-6671

5. ゾーニング

全長約 420m ブールバールは「広場」へと切り替えられたことによるイベント誘致時の制約緩和により、小さなエリアごとの利活用頻度向上が考えられるため、周辺環境の特性と合わせ、zoneA, B, C とするゾーンを設定した。

具体的には「周辺飲食店が行うオープンカフェ等と一体となった賑わいを創出する空間」「芝生広場や立山連峰の眺望を楽しみ、自由にくつろぐことのできる空間」「3x3 バスケットボールコート、富岩運河環水公園等周辺施設で行われるイベントと併せて自由に活用できる空間」と各々の利用シーンを想定した整備内容とした。

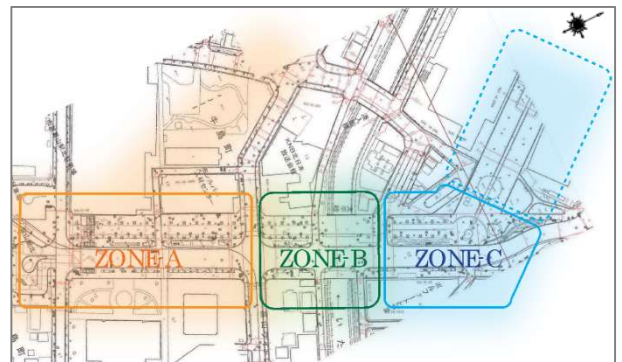


Fig. 4 ゾーニング

6. 全体計画

広場空間として広く利活用を行うこと、ムクドリによる鳥害への対策として、必要となる既存樹木を整理し、現在の樹木の本数を 1/4 程度に間引く計画とした。緑豊かでうるおいのある滞留空間創出と自由に使えるイベント空間創出のため、芝生の空間を随所に設けた。中央部は直線的に歩行できる空間を維持し、併せて「グリーンスローモビリティ」の走行空間も確保した。これらにより計画地北部に位置する富岩運河環水公園への誘導、視線及び空間の連続性確保を図った。

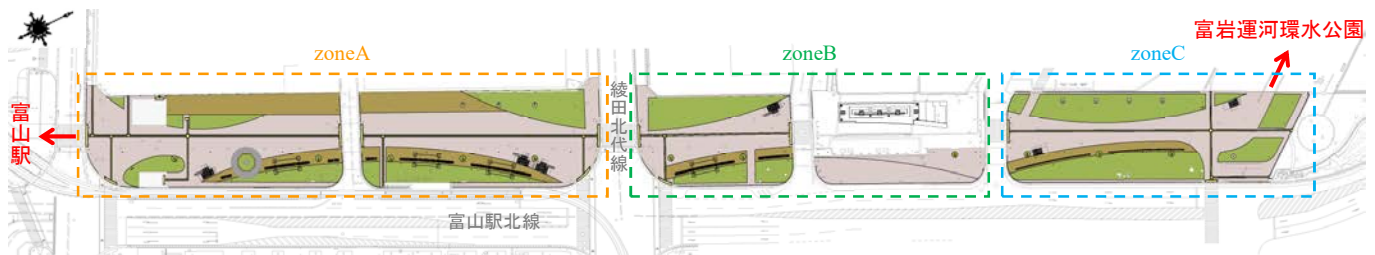


Fig. 5 計画平面図

7. 整備施設内容

コンセプトである「緑の都市空間」の創出に向け、特徴的な施設として「箱ファニチャー」及び「橋上ベンチ」の整備を計画した。箱ファニチャーは中に収納されたテーブル、イス等を展開することでイベント時や日常的な昼食時のイートインスペースなどに活用できる移動可能な施設である。橋上ベンチは zoneB のテーマである「くつろぎの空間」創出を目指し、寝そべりながら東側に見える立山の眺望を楽しむことのできるベンチであり、日常的にくつろげる空間の形成を図る施設である。そのほか、日除けとして「タープ」や落ち着いた空間を演出する「木製ロングベンチ」等の整備により、屋外でありながらリビングのようにリラックスできる広場空間として計画した。



Fig. 6 箱ファニチャー

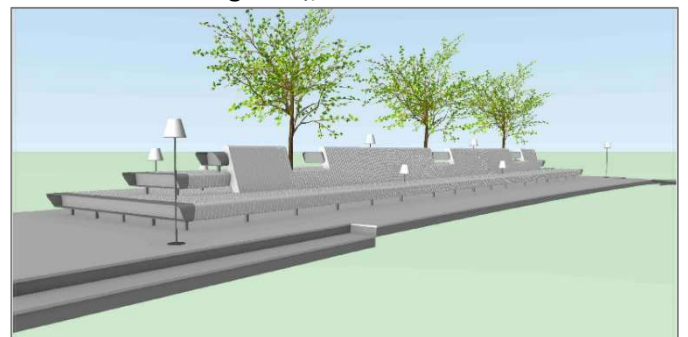


Fig. 7 橋上ベンチ

8. 今後の展望

本計画は設計段階であり、2021 年度より 3 ヶ年での整備を予定している。富山市の取り組みである「歩いて暮らせるまちづくり」に向け、再整備計画と並行し、ブールバールエリアマネジメント富山によるブールバール広場の賑わいづくり及び魅力向上による「歩いて行きたくなる空間」としての運営が求められる。弊社及び私個人としても上記協議会への参画を通し本事業の目的達成に寄与したい所存である。